

いつの時代も、
どこで暮らしても、
私は私らしく生きた

恋するピアニスト フジコ・ヘミング

FUZZIKO HEMMING, A PIANIST WITH A ROMANTIC TONE

出演・音楽：フジコ・ヘミング

監督・構成・編集：小松莊一良

プロデューサー：大村英治 佐藤現 撮影監督：藤本誠司

録音・整音：井筒康仁 サウンドエンジニア：坂元達也 カラリスト：林元太郎

宣伝：安川千尋 演出補：小松上花

企画：スピントーキョー 制作プロダクション：WOWOWエンタテインメント

製作：東映ビデオ、WOWOWエンタテインメント、スピントーキョー、WOWOW 配給：東映ビデオ

2024年/日本/119分/5.1ch ©2024年恋するピアニスト フジコ・ヘミング/フジコ・ヘミング・フィルム

fuziko-film.com

世界中から愛され、
人々の心を震わせてきたピアニスト、フジコ・ヘミング。

“恋”に彩られた彼女の人生、妻でた音色は、旅を続ける。

——子どもの頃、寝床に着くと聞こえてきたのは、母が弾くショパンの「ノクターン」。

その音楽に魅了され、ピアノに触れた時から、フジコの音楽の旅が始まった。

数奇な運命をたどり、世間から注目されたのは60代後半。いくつもの苦難が訪れても、フジコはピアノを弾くことを決してやめなかった。

90歳を超えてもなお、世界中で精力的に演奏を続け、公演はどれもソールドアウト。2024年もたくさんの公演を控えていた中、フジコは4月に急逝した。

サンタモニカ・パリ・東京での暮らし。

演奏の原動力となったのは、家族である動物たちや自分を信じること。各国に家を持ち、愛する猫や犬たちに囲まれ、ピアノを弾く毎日が、彼女の愛すべき世界だった。

2018年に異例のロングランヒットを記録した映画『フジコ・ヘミングの時間』から6年。



本作は2020年から4年間の旅路を演奏と共に描くドキュメンタリー作品である。

戦時中を過ごした岡山に残されているピアノとの再会、父や弟との思い出、コロナ禍での暮らしと祈りを捧げる演奏、思い出の地・横浜でのドラマティックなステージ、そして秘めた恋の話——。フジコはどんな時も、自分らしく生きてきた。

フジコが愛したパリでのラストステージ

2023年3月、フランス・パリ、コンセルヴァトワール劇場でのコンサートでは、「ラ・カンパネラ」「別れの曲」「月の光」「亡き王女のためのパヴァーヌ」など、数々の名曲が披露された。「最後の演奏会はどんなものにしたい?」の問いに、パリでの演奏会のようにしたいと話していたフジコ。

大切な場所で、過去と記憶が交差し、フジコの人生とともにあった魂の演奏に思わず涙があふれる——。



恋するピアニスト フジコ・ヘミング

出演・音楽：フジコ・ヘミング 監督・構成・編集：小松莊一良
配給：東映ビデオ ©2024「恋するピアニスト フジコ・ヘミング」フィルムパートナーズ

公式HP: <https://fujiko-film.com>

公式X: @Fujiko_film



高知市立中央公民館事業

第205回

市民映画会

2月9日(木)

高知市文化プラザかるぼーと 四国銀行ホール (旧 大ホール)

※同時上映 母とわたしの3日間

※上映時間 18時00分～21時21分

上映時間	恋するピアニスト フジコ・ヘミング		母とわたしの3日間	
	10:30		13:10	
	15:10		17:25	
	19:20			
開場 10:00 / 終了 21:21				

料金 一般前売券1,300円 一般当日券1,500円

割引券1,000円 (映画会当日に会場で販売)

※割引券の購入対象者は学生証・障害者手帳等の所持者および65歳以上(要年齢証明)の方。

※障害者手帳をお持ちの方で介助が必要な場合は、介助者1名まで割引料金。

【前売券販売所】 かるぼーとミュージアムショップ、県民文化ホール、県立美術館ミュージアムショップ、

金高支店 本店、サニーマート各店舗

(お問い合せ先) 高知市立中央公民館事業部 ☎098-882-5671